

ひと

歩きスマホ実験でイグ・ノーベル賞を受賞した研究者

むらかみ ひさし
村上 久 さん(34)



笑わせながら人に考えさせるパロディの賞。賞品は盾だが、組み立て用データがメールで送られてきただけだった。普通紙に印刷して作ってみると、エアコンの風で倒れそうな頼りなさだった。

京都工芸繊維大に新米助教として1月から勤める。歩きスマホが人の流れを阻害する実験で受賞したが「面白がられるのが不思議でした」。交差点で行き交う人は、

指示がなくてもスムーズにすれ違ふ。集団が自律的に一塊のようにふるまう「自己組織化」の仕組みを調べる過程で、その形を乱してみたら「評価」された。

大阪府八尾市出身。「ボーツと過ごしていました。子どもの頃のエピソードが何も出てこなくてす

いません」。転機は神戸大で入った研究室。群れの中の個と全体の関係を探るのが面白くなった。

修士課程では、数十万匹の群れをつくるカニの研究で沖縄・西表島へ。博士課程では仲間とアユ100匹を飼育した。いずれも縦横無尽に動きつつ、全体では塊になる自己組織化がみられた。

検証は視覚、におい、音などを遮断して変化を探る。視野が狭まる「歩きスマホ」も一つの手段だった。互いの動きを察知するのは視覚だけでないこともわかり、謎が深まった。「魚や鳥の群れがぶつからないのを『すごい』と思うでしょうが、実は人にも同じ能力がある。ワクワクしますよね」

文・写真 野中良祐